

ノートテイク勉強会 報告書

目的

聴覚障がい学生にとって、ノートテイクは非常に重要な情報保障である。秋学期が始まり新たにノートテイクカーとして支援をしてくれる学生もいる。そこで、よりよいノートテイクが出来るよう、外部の要約筆記サークルの方も呼び、ノートテイクの実習を行うことで学生の技術力を向上させ、さらに座談会を設けることで学生の意識を高めることを目的とする。

※ノートテイクとは、授業中の音声情報を視覚化することにより、聴覚障がい学生に授業保障をする支援のことです。

主催者

障がい学生支援プロジェクト

外部参加者

伊勢原要約筆記サークル「やまびこ」

日時

2007年12月15日(土)10:00～12:30

参加者

ノートテイクカー(学生)、聴覚障がい学生、やまびこ(伊勢原市要約筆記サークル)他

参加者内訳

ノートテイクカー(学生)	聴覚障がい学生	プロジェクトメンバー	やまびこ	その他	計
8	4	4	9	4	12

事前準備

聴覚障がい学生が約1ヶ月半前から集まって話し合いをたびたび設けた。また、ノートテイクカーから事前にアンケートをとり、勉強会での要望、テイク活動における疑問点などを集め、勉強会、座談会の内容を決めていった。

11月11日に、聴覚障がい学生とプロジェクトメンバー、「やまびこ」、北野先生(社会福祉学科教授)とノートテイク勉強会の打ち合わせを行った。様々な意見やアドバイスを聞くことができ、準備に向けて参考になった。

責任者を中心に、1週間に1回、「やまびこ」と綿密な打ち合わせをした。

携帯メールを中心に、参加者を募集し、一週間前からタイムテーブルを参加者に配った。

内容(全体の流れ)

勉強会の前半では、伊勢原要約筆記サークル「やまびこ」より、基本的なテイクの仕方、必要最低限のマナー、ノートテイクとパソコンテイクの違いについて、の3点を説明していただきました。その後、北野先生によるミニ講義を実際にノートテイクしていただきました。その後、ノートテイク(学生)と「やまびこ」の方々に実際にノートテイクをした紙を見せあい、意見交換をしました。

休憩をはさみ、文系・理系にわかれて座談会を設け、ノートテイクするときの悩みなどについて話し合いました。その後、アンケートに答えていただき、プロジェクト会議室で「やまびこ」、ノートテイク、聴覚障がい学生を交えた交流会を開き、お互いの親睦を深めました。

座談会の内容

まず事前アンケートで、参加者から文系・理系の授業でのノートテイクで共通する問題点や困っている点を集め、座談会のテーマとして話し合った。

★ビデオを使った授業があり、さらにビデオの途中で先生が割り込んで話すこともあり、ノートテイクが書けなくなり、困難してしまう。

→ビデオの音声と先生のを交互にゆっくり話してもらうように先生に願います。また、先生がビデオの内容をワープロで打ってくださったものをあらかじめ渡してくれる方法もある。しかし、忙しくて時間が作れない先生も多く、お願いしにくい面もある。

★日本国憲法の授業は、教科書中心。先生が教科書を読みながら、補足をつけるので、ノートテイクは時々手が止まってしまう。

→方法として、教科書をコピーしたらどうか。コピー紙の余白とノートテイクする紙を両方とも利用して、書いていったらどうかという話があった。教科書中心の授業は教科書がないと苦しい。事前にノートテイクにも教科書を見てもらうと、大体のイメージがつかめるので楽になる。

Ex.

(ある聴覚障がい学生の場合)、教科書をただ使った場合はなぞってもらったり、単語についての説明については教科書に書き込んだりする。パワーポイントはコピーしてもらった。教科書をあまり使わず、コピーしたものを書き込むこともあった。

★先生の話すスピードが速くて追いつかないときは、ノートテイクだけでは大変。

→パソコンテイクの方が文字数を稼ぐことができる。ノートテイクが2人の場合、片方が主筆で、片方の人は書けなかった所などを補足する役割を担うことができる。また、授業前にキーワードの略字を利用者と相談して決めておく方法もある。

企画責任者の感じたこと

まず全体として、非常にいい勉強会になれたと思います。利用者(聴覚障がい学生)とノートテイク(学生)と「やまびこ」が話し合う機会は本当に少なく、今回勉強会を開くにあたり、利用者の気持ちや様々な意見を知ることができたという声を聞いて、大変うれしく思いました。問題点として、学期末という時期に開いたために、せっかく勉強会で学んだことを授業に生かせる機会が少なかったと思います。また、ノートテイク実習・検証を実施したことは良かったと思いますが、実習時間がちょっと短かったり、検証として、一人のノートテイクが書いたものをもっと多くの人に見てもらおうようにする等の改善すべき点がいくつかあるように思います。反省をもとに、次の勉強会に生かしたいと思います。

報告書担当者の感じたこと

初めは準備する時間が短いのではないかと思いましたが、聴覚障がい学生同士の話し合いもスムーズに進み、「やまびこ」の方を交えた話し合いもできて、準備も十分に時間をかけ、前回のノートテイク勉強会の反省部分もふまえて、よりよい勉強会になったと思います。次回勉強会を開く際には、もっと早い時期に開けるといいなと思います。

これからすべきこと

次回、ノートテイク講習会を開くときは学期末ではなく、学期の初めに開けるようにすべきだと思う。その方が勉強会で学んだことを授業で生かしていくことができる。これからも、1年間に2回(春と秋)、定期的に勉強会を開きたいと思う。また、これからのためにもノートテイクをもっといろいろな人に知ってもらい、支援者を増やしていきたい。

NT勉強会・交流会タイムテーブル

2007年12月15日

9:30～	受付開始
10:00～10:05	挨拶
10:05～10:15	ノートテイクのポイント確認 ①基本的なテイクの仕方 ②必要最低限のマナー ③手書きとパソコンについて 「やまびこ」から話してもらいます。
10:15～11:20	ノートテイク実習・検証 北野先生による講義を実際にノートテイク(一人書き)してみます。 講義後、隣の人と交換し、検証してみます。 ここで、聴覚障がい学生が自分のニーズをチェックし、「やまびこ」が基本的な書き方のチェックをしてもらいます。
11:20～11:30	休憩・プロジェクト会議室4・5に移動
11:30～12:20	座談会 文系・理系に分かれて、話し合います。 分ける理由→文系のノートテイクと理系のノートテイクは方法が違うため。 例、数式・図形の書き方、英語の音読部分書き取り方法、など
12:20～12:30	事後アンケートの記入
12:30～	挨拶、ノートテイク勉強会終了
12:45～	プロジェクト会議室で「やまびこ」との交流会(食事会)
15:00	終了。後片付け。解散。